H.28
（2016年）

四　月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺

怒って鏡を覗いたら、鏡の顔も怒ってた

鏡は真実（本当）のものを写すが、鏡や写真のように貴方は自分と他人の『真実』が見えますか。人間関係には①利己主義を通す②相手に関わらない③支え合い・助け合う、があります。『真実を見る人の前に仏は常に現れる』と言われます。が、本当の自分も『仏』も分からないから、救われないのです。『思い通りにしたいとの利己主義』に対し、仏様の方から叱って下さるのが『本願』です。本願とは、無病息災などと私が仏に願うのではなく、『願う仏と願われる私』という関係なのです。

真理＝真実の道理（正しい筋道）に目覚めた人を『仏陀』と呼び、仏は真理の体験者であり『真理＝真如から来た人』の意味で『如来』とも言います。如来の本願は『自分の思い通りにしたいとの自我（鬼）の心を変え、人間本来の慈悲（仏）心に目覚めよ』の呼びかけです。親鸞聖人は『阿弥陀仏は娑婆（この世）に居られ、念仏申そうと思い立つ時、心が安らぐ』と説かれました。

主な参考資料

(1)中西智海（著）『新々みちしるべ・理知－菩薩シリーズ－』、さんぽうの会、p.31～36（平成17年）。

(2)池田勇諦（著）「真宗入門－『本願』とは（1）」、月刊・同朋－2014年1月号、p.27～29、東本願寺出版部。

(3)亀井　鉱（筆録）『人間の根っからな思い違い』、月刊・在家仏教－2015年12月号、p.12～26、在家仏教協会。